

商工観光課 花と緑のまち・庄原を店先からPR ガーデニングセミナー開催!



齊木さん(左)から寄せ植えを教わる参加者

庄原観光いちばん協議会は9月9日、店舗事業者を対象にしたガーデニングセミナーを国営備北丘陵公園内で開催し、24人が参加しました。齊木義伸さんを講師に迎え、実際に寄せ植えをしながら、苗ごとの特徴から扱い方、寄せ植え後の手入れの方法などを学びました。受講者からは「苗一つ一つの特徴や扱い方を聞くことができたので、今後の手入れに生かしたい。作品は持ち帰って早速、店先に飾りたい」と話していました。秋の庄原もオープンガーデンや丘陵公園の花畑など、花と緑の魅力満載です。本協議会では、今後さらに玄関先や店先から花と緑のまちづくりを推進していきます。

商工観光課 インターネットを活用したPR術を学ぶ WEBプロモーション講座を開催



講演する小田さん

市と市観光協会は8月25日、WEBプロモーション講座を庄原市ふれあいセンターで開催し、27人が参加しました。この講座では、箱根観光サイトなどを手がける(株)カンドウコーポレーション代表取締役の小田英男さんを講師に迎え、今年3月末にリニューアルした「庄原観光ナビ」の有効活用を含め、自社のホームページの改善や効率的なWEBプロモーションのヒントとなる事例などを学びました。受講者は「WEBを活用したPRの方法がすべて良かった。早速、庄原観光ナビへの登録や、自社ホームページの改善に取り組んでいきたい」と話していました。庄原観光ナビの活用について興味をお持ちの方は、庄原市観光協会(☎0824・75・0173)にお気軽にご連絡ください。

商工観光課 地域ブランド戦略を学ぶ 観光地域づくり講演会



平戸ブランド化戦略の取り組みを紹介する久富さん

庄原観光いちばん協議会主催の「観光地域づくり講演会」が9月3日、食彩館しょうばらゆめさくらで開催され、46人が受講しました。この講演会では、長崎県平戸市職員の久富大輝さんが、平戸ブランド戦略的プロモーション事業の取り組みを説明。福岡都市圏や関西、関東に流通拠点を設け、生産者と行政が一体となって取り組んだ商品開発から流通・物販までの仕組みづくりや、ふるさと納税額日本一に繋がったカタログギフトの舞台裏などが紹介されました。参加者は「大きな刺激を受けた」「地域ブランド化に向けて関係者が一丸となって取り組むことが必要だと感じました」と話していました。

商工観光課 商品開発のポイントを聞く 逸品料理スタートアップセミナー



料理メニュー開発のポイントを紹介する平山さん

庄原観光いちばん協議会は8月27日、地元農畜産物を使用した庄原ならではのグルメを開発するための「逸品料理スタートアップセミナー」を庄原市ふれあいセンターで開催し、22人が受講しました。講師でフードコーディネーターの平山友美さんが、最新の食の情報や交えながら、肉料理やスイーツメニューの開発ポイント、人気メニューや食の流行について分かりやすく説明。講演後の質疑でも具体的なメニュー開発に関する質問が出され、内容の濃いセミナーとなりました。今後は、専門家による個別指導を実施するなど、新たなメニュー開発の取り組みを支援し、逸品づくり事業を進めていきます。

商工観光課 大相撲「庄原場所」来秋開催決定! 日本相撲協会と覚書を締結

大相撲の秋巡業「庄原場所」が来年10月26日、庄原市総合体育館で開催されることが決まりました。開催に向け8月28日、日本相撲協会の武隈親方(元前頭筆頭蔵玉錦)が来庁し、木山耕三市長と覚書を交わしました。

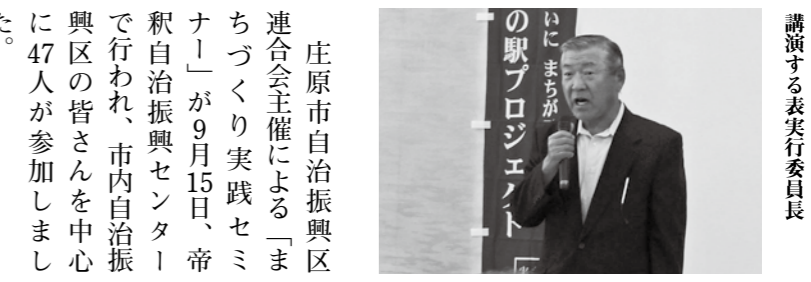
「庄原場所」は庄原市ふるさと大使でタレントの西田篤史さんなどが誘致に協力し、実現する運びとなりました。当日は、力士約260人が出場する予定で、取組に加え、握手会や子どもとの稽古なども計画されています。武隈親方は「最近相撲人気に戻ってきた。お客さんに喜んでもらえるよう頑張りたい」と抱負を述べました。今後市や市体育協会、商工団体などが12月頃実行委員会を設立し、開催に向け準備を進めます。



覚書を交わす武隈親方(左)と木山市長

自治定住課 まちづくりのヒントを学ぶ まちづくり実践セミナー

今回は、東城地域で取り組まれている「木の駅プロジェクト」をテーマにした研修が行われ、まず、同プロジェクト事務局の門野淳記地域おこし協力隊員がこれまでの経過や仕組みについて概要を説明し、間伐材や林地残材を地域通貨「里山券」に換え、この券を利用して買い物ができるシステムが定着しつつあり、木材の出荷量が今後増加する見込みであることを報告しました。続いて表良則実行委員長が講演



講演する表良実行委員長



木の出荷場で詳しい説明を聞く参加者

し、プロジェクトの課題や今後の取り組みについて、「補助金に頼らない自立した仕組みづくりを考えなければならぬ」と次への目標を語りました。その後、参加者は木の出荷場所(土場)や里山券の取扱店舗を見学。「自分の地域でも木の駅を取り組みたい」「収益事業として地元根付き、地域の活性化につながる」と感じたという声がかけるなど、今後他地域での実践が期待されます。